

### 【(一般的に) 保守主義とは?】

「抽象的な理念に基づいて現実を根底から変革するのではなく、むしろ伝統のなかで培われた制度や慣習を重視し、そのような制度や慣習を通じて歴史的に形成された自由を発展させ、秩序ある漸進的改革を目指す思想や政治運動」

(宇野重規『日本の保守とリベラル』中公選書、2023)

エドモンド・バーク (1729-1797) …もともと自由の闘士! →反フランス革命に

- ①「保守する」ポイントは具体的な社会の制度 (含む慣習=手段)
- ②それが歴史的に形成され世代を越えて維持・継承されてきたもの
- ③その目的が、歴史的に認められた自由・権利を守るため
- ④民主主義が基礎 (≠ただ古い身分制の保持)

※伝統主義、反動、復古とは違う!

★対義語は「急進」「革新」…改革へのスピード?程度問題

### 【(一般的に) リベラリズムとは?】

「他者の恣意的な意志ではなく、自分自身の意志に従うという意味での自由の理念を中核に、寛容や正義の原則を重視し、多様な価値観を持つ諸個人が共に生きるための社会やその制度づくりを目指す思想や政治運動」(宇野・前掲書)

・リベラル=「気前のいい」「寛大な」(キケロ、セネカ)

・「自由」=独立した市民であって奴隷ではないこと (他者の支配を受けないこと)  
…そのために存在する「自由7学芸」

- ①「他者の恣意的な意志ではなく、自分の意志に従うこと」(⇔日本的価値)
- ②「リベラルな」=他者への配慮や寛容を重視する道徳観
- ③自らの意志で自分の人生を自律的に選択可能であるべきという理念

★対義語:利己主義、個人主義、権威主義、全体主義

### 【(また) アメリカの影響】

・アメリカ…保守すべき王制や貴族制度などなし

■建国の精神として、自由=リベラリズムが唯一正統な価値

- ・古いリベラリズム=小さな政府=保守=共和党
- ・新しいリベラリズム=政府の役割重視=リベラル=民主党

### 【日本の特殊な“磁場”】

「保守」の政治勢力が新たな制度や政策の導入と「改革」に明け暮れた

☞その際に日本で常に参照されるべき政治制度や社会の基本的価値とは?

【戦前】明治憲法体制を前提にその漸進的發展を目指した

リベラル)」

…党内“派閥政治”という対立に矮小化し、「反共・経済発展」を内実とする保守主義なき現状維持を志向する保守勢力による政治

【丸山真男の中の福沢諭吉～「惑溺」】

★「自己相対化主体」

- ・「交通」空間において、たえず自らの思考を反省し、相対化し続ける（≠相対主義）
- ・多様な価値の中で自分の見通し・価値観を越えるものとの緊張関係においてたえず再吟味していく
- ・開くこと＝自分と異なるものを措定して対面すること＝緊張に身を置くこと
- ・自己批判的な距離をとること＝内在性に閉じ込められないこと＝現実に積極的にコミットすること（≠ニヒリズム）
- ・所与の環境から主体が自らを引き離し「ズルズルベッタリ」を脱すること＝惑溺しないこと

※「惑溺：ある時点における価値規準を絶対視すること、固定的な閉鎖社会において、自らの思考や価値判断を絶対化すること」

→そのために必要なのが「交通」（＝社会的交通）であり「他者」

※「超国家主義」「無責任の体系」「忠誠と反逆」

【成熟社会と1979年】

村上・佐藤・公文「脱「保革」時代の到来」（中央公論、1977）

…これまでの欧米をモデルとした「追いつき型近代化」の達成と「新しい中間層」の成立

●新しい中間層＝1億総中流＝1億総既得権者＝1億総「私生活中心主義」●

…革新のユートピアモデルは衰退し、保守は何を「保守」するのか不明に

自民党が伝統志向型から利益志向型に変化し、目の前の私生活中心＝現状維持勢力を「顧客」として取り込み「豊かな社会」を実現した。

→自民党1強は、日本の「保守主義」の隆盛ではない！…哲学なき保守主義の迷走

Q：日本は？…大平総理の政策研究会（1979年）

「日本の自殺」（グループ1984『文芸春秋』1975年）

→ローマ帝国が滅びたのは、異民族による攻撃ではなく、むしろ「魂の分裂」と「社会の崩壊」による「自己決定能力の喪失」であり、現代日本社会もまた同じ現象がみられる。

A：「経済の時代から文化の時代へ」としつつも、バブルというブーストも伴って「男性稼ぎ主モデル」等々、自己肯定と現状追認